

岩手研本報

No. 2 0 1

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

平成30年1月31日

第48回岩手県公立小中学校事務研究大会

10月6日(金)、いわて県民情報交流センターを会場に、373名の事務職員が集い、第48回岩手県公立小中学校事務研究大会が開催されました。

平成25～29年度までの研究大会5ヶ年計画の最終年となる今次研究大会では、学校教育に寄与する岩手の学校事務の確立と研究を目的としており、「創造しよう！子ども・地域とともに歩む岩手の学校事務を」をテーマに、紫波支部、花巻支部、気仙支部の分科会発表と県事務研研究部主管の全体研究会が行われました。



研究大会に参加して～各分科会に参加した方からの感想～

【第Ⅰ分科会】紫波支部

学校事務を如何に紡ぎ繋いでいくか

—職位や経験を問わず、質の高い安定した事務機能の提供—

《滝沢市立滝沢東小学校 小原 諒太さん》

今年の4月に学校教育法等の一部改正により学校事務職員の職務規定が「事務をつかさどる」に変更になりました。紫波支部では、「安定した事務機能の提供」を行うことが「経営参画」である、とした上で、経験年数や職位に大きな隔たりがある中でどのように学校経営に参画していくか。また、事務職員の業務をどのように経営参画と結びつけるかを主な軸として討議を行いました。

討議では、若手・中堅・ベテランの三者の視点から行いました。経験年数や職位等様々な環境により視点は異なりますが、共通している(できる)ことは事務職員の業務分野、得意分野である「分析力」と「論理的な思考力」の観点から参画する(できる)点です。今現在も行いながら業務をしている方がほとんどだと思いますが、「安定した事務機能の提供」を行うため、事務職員の生かせるスキルである「分析力」と「論理的な思考力」の向上を今以上に継続して養っていただければならないと感じました。

【第Ⅱ分科会 第1分散会】花巻支部

花巻市内小中学校における学校事務の統一化に向けて

～研究実践から関係機関との連携、そして安心感のある学校事務の構築へ～

《盛岡市立羽場小学校 虫壁 佳奈さん》

花巻市では、事務改善や学校事務の水準維持のために「データ管理システム」や「新採用者研修マニュアル」、「学校給食会計改善」等についての実践や取り組みについて発表されました。

学校給食会計改善についての発表の中で「俯瞰して物事を見る」という言葉がとても印象的でした。事務改善を行う場合には事務職員の視点だけでなく、他の視点に立って物事を見ることにより別の問題が見えて、更なる改善を期待できるのだと勉強になりました。また、給食会計の改善には校長会との連携があつての実現だと聞き、改めて関係機関との連携の大切さを実感しました。
(次のページに続く)

事務の統一化については、分科会討議で様々な支部の状況を知ることができました。事務研が複数の市町村の学校から構成されているところは、支部内の統一も難しい状況であったり、また他の支部では事務研で決定されたことは必ず行うため、統一化しやすい状況であったりと様々でした。

支部により難しい場合もありますが、安心感のある学校事務を構築していくための方法のひとつとして、事務の統一化が有効的だと感じました。また事務の統一化だけにこだわらず、日々の業務を滞らさず行ったり、物品の管理をしたりすることも安心感のある学校事務だと思います。まずは、自身が安心感を与えられるような事務職員になれるように業務を行っていきたいです。

【第Ⅱ分科会 第2分散会】気仙支部

組織的な事務改善のあり方を考える ～災害から学び、未来の学校事務を目指して～

《平泉町立平泉中学校 阿部 理恵子さん》

「組織的な事務改善」に魅かれて参加しました。

分科会では大船渡市、陸前高田市、住田町でそれぞれ取り組んできた事務改善の報告を受け、各市町村が共同実施、共同実施推進協議会、研究協議会を色別にしたシールを利用し、その組織が改善しやすい度合、集まりの速さで比較するとどの位置にいるのか表示し現状を交流しました。

また、事務改善には、どんな手法が有効なのか、課題解決をする組織とは、の意見から今後の取り組み方法が見えてきたと思います。

助言者も推奨していた、課題を年度内に解決する、次年度内に解決する、今後検討することに分けて整理し検討する、という取り組みも早速、取り入れたいと思いました。誰のための、何のための改善なのかを考えながら取り組むこと、地教委と意見交換をしながら、校長会や副校長会を巻き込みながら進めることなども参考になりました。



全体研究会

今 振り返り、さあ 次のステージへ

～創造しよう！学校事務の将来像を～

今大会では、上記のテーマのもと3部構成の発表がされました。1部では、現大会計画の5年間を振り返り成果と課題を共有。2部では、私たちを取り巻く状況についての課題。3部で





は、次期研究大会計画となっております。

また、2部の中では講師・助言者の方から講話をいただきました。講師の盛岡大学文学部児童教育学科準教授 福島 正行 氏からは、「事務をつかさどる」について、「事務職員はこれまで以上に自律性、権限、責任を意識して仕事をしていかないといけない。」などのお話がありました。

そして、助言者の岩手県立盛岡第一高等学校事務長 関口 民男 氏からは、ご自身のこれまでの経験を踏まえ、「人間、適応力があって完璧ではなくともやればなんとかなる！」などのお話がありました。

会の最後には、さあ次のステージへ！という場面で、これからを担う若手代表として、久慈市立山形小学校の 千田 友哉さん から「これからの岩手の教育や子供たちの未来のために、ここにいる皆様と一緒に、ともに研鑽しともに学んでいきたい。」と、決意表明していただきました。



《全体司会者》

今大会の全体司会を担当してもらいました、佐々木 志都 さん(北上市立黒沢尻北小学校)。緊張したと言いつつも、最後まで落ち着いて、聞き取りやすい声で進行をしてくれました。

参加者の方からも、はきはきしていてよかったなどの感想もあり好評でした。
大変お疲れ様でした！！

第2回支部代表者会

平成29年12月8日(金) 会場：都南公民館

各部の事業報告と今後の予定について協議、確認されました。

- 1 総務部
 - ・ 50周年記念全事研セミナーについて
 - ・ 平成30年以降の総務部事業案について
- 2 研修部
 - ・ 第48回岩手県公立小中学校事務職員研究大会について (アンケート結果、予算について)
 - ・ 夏季研修講座について (アンケート結果)
 - ・ 県事務研セミナーについて
- 3 研究部
 - ・ 第22回東北地区公立小中学校事務研究大会宮城大会分科会発表の取組について
 - ・ 全事研調査について
- 4 その他
 - ・ 法改正について各市町村の状況について
各市町村教育委員会の学校への通知状況等について
情報交換。
 - ・ 各支部での活動状況について
支部で取組んでいる研究活動についてお聞きしました。
研究発表がある地区について、他地区の方も参加できるようにしていただいたところもありました。



今年度が最後の実施となる県事務研セミナーが、1月5日(金)「プラザおでって」において開催されました。兵庫教育大学教育政策リーダーコース教授 日渡 円 氏を講師にお迎えして、「従事からつかさどるで学校はどう変わるか」を演題にご講演いただきました。参加者は118名でした。

講演の中では、法改正の「事務をつかさどる」について詳しくお話いただきました。「法律が変わるということは、国民がそう望んでいるということ」と、事務職員が期待されているというお話もありました。

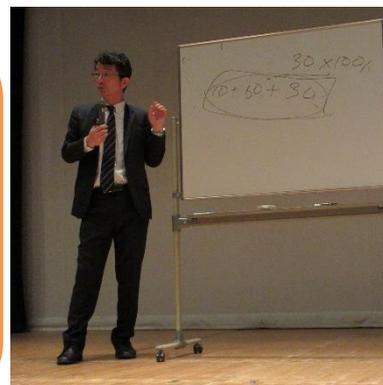
しかし、「法改正があっても何も行動に移さない人(変わらない人)は法律に違反していることになる。これからの事務職員は、変わるか・辞めるかの2択であると思う」という厳しいお話もありました。

今回の講演は、「事務をつかさどる」について考えるととてもいい機会でした。これからの事務職員は、普段から学校の状況を把握し、校長・副校長と協力し学校全体をマネジメントできるようにしなければいけないと考えさせられるものでした。



《参加者からの声》

- ・意識改革になった。事務に自覚と責任を持ち、あたることがさらに求められると感じた。
- ・新しいとらえ方が聞いて良かった。
- ・心にズシリとひびきました。
- ・今まで感じていたボヤっとしたイメージに対して、在るべき方向性を指してもらった気がした。



いわての学び希望基金

今年も研究大会会場で参加者のみなさんからご協力いただきました。募金額は 5,000円 でした。ありがとうございました。

本協議会では、「いわての学び希望基金」へ協力しています。この基金は、東日本大震災によって親を失った子どもたちが学校を卒業し、社会人として独り立ちするまでの支援を行う基金です。



『第49回 岩手県公立小中学校事務研究大会』のお知らせ

次回の開催は、1年空いて再来年度となります。
研究発表は、二戸支部、遠野支部、和賀支部が予定されています。
なお、一次案内の発送は平成31年3月頃を予定しております。

期 日：2019年10月11日(金)
会 場：いわて県民情報交流センター アイーナ

